

# Muse Letter

札幌市博物館活動センターは自然史博物館の計画推進のため、市民とともに普及交流活動、展示、調査研究、資料収集保存を行う活動拠点です。

2015.10 No.62 発行・札幌市博物館活動センター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ内5階

TEL 011-200-5002 FAX 011-200-5003 <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

## 札幌の田んぼ

一面に黄色く色づいた田んぼで、イネの穂が重たそうに垂れている風景は、いかにも日本的な風景といえます。しかし、札幌ではなかなかそうした景色を見かけません。では、札幌は田んぼを作るのに向かない土地なのでしょうか。そんなことはありません。確かにもともと暖かい気候が好きなイネを、本州などに比べて夏の気温が低い北海道で育てるのは難しいことでした。

札幌で初めて米が収穫されたのは、江戸時代末期の1857年(安政4年)、今から148年前です。これを成し遂げた農民である早山清太郎は、箱館奉行所の役人だった荒井金助に重用され、他の農民とともに札幌の篠路でイネの栽培に挑戦していきました。篠路地域はもともと湿った土地だったので田んぼには向いていましたが、一方で何度となく洪水で水びたしになりました。このように北海道の米作りは、洪水や冷害による損失が大きく苦難の連続でしたが、明治26年に北海道庁が札幌の白石、真駒内、函館(七重)に稲作試験場をつくって研究を進めました。札幌は北海道の稲作研究の中心地でもあったのです。

そこで、現在、札幌市内の田んぼはどうなっているのか調べてみました。札幌市内の田んぼの面積は約455ヘクタール、市内の農地面積全体に占める割合は1.7%です(「札幌の農業平成26年度版」より)。様々な社会的な理由で、全国的に田んぼが減っています。同時に、田んぼに生息するカエルやトンボの幼虫(ヤゴ)、アオサギなどの野生生物も身近で見ることが少なくなりました。たとえば、水面にプカプカ浮いて生きるイチョウウキ



ゴケは、昔は雑草と言われていましたが、今は絶滅が心配される植物になっています。

とはいっても、数年前、小学生の女の子が「通学路にある田んぼにオタマジャクシとかいたのでもっとくわしく調べてみたい」と、博物館活動センターの行事に応募してきました。女の子にとって田んぼは「生き物がウヨウヨいる特別な場所」に思えたようです。イネだけでなく、田んぼには私たちの好奇心をも育てる作用があるのかもしれない。(山崎)

### 参考・引用資料

「札幌の農業平成26年度版」(札幌市経済局農政部農政課、2015年)

「さっぽろ文庫61農学校物語」p.140-145稲作の普及と発達(札幌市教育委員会編、1992年)

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—9植物II(維管束植物以外)」(環境庁、2000年)

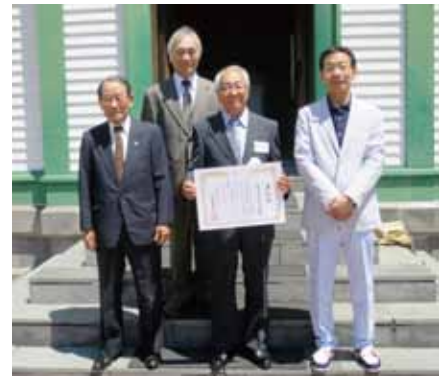
持田 誠・山崎真実・内田暁友、2002年。札幌市近郊のイチョウウキゴケ産地。水草研究会会報76:40-42.

「稲 いのちと文明の植物—イネ科ワールドへようこそ—」(ミュージアムパーク茨城県自然博物館、第26回企画展図録、2002年)

# 活動センターで活動する団体が受賞! おめでとうございます!

北海道博物館協会表彰  
「札幌自然史研究会」

センター開設と同時に発足した活動歴14年の団体。当センターや区民センターでの化石クリーニング体験、企画展の開催のほか、現在行っている南区小金湯産クジラ化石のクリーニング作業など長年のボランティア活動が評価されました。



第2回博物ふえすていばる!(東京)  
ガクモンからエンタメ☆最優秀賞  
「えぞホネ団Sapporo」

「さわれる、あそべる、感じる標本」と題して、樹脂で固めた動物の標本や、磁石でくっつく骨の立体パズルなどを出展。アメリカ航空宇宙局(NASA)にいたことのあるクマムシ研究者堀川氏をもおさえ、来場者投票で1位に輝きました!

日々の活動は、標本作製の技術を磨いて、博物館でも使える標本のアイデアを形にしていける活動をしています。

## ホット コラム 展示室につき 大発見!? カラフルなハチの子??

みなさんはハチの幼虫と聞いてどの様な姿を思い浮かべますか? 私は六角形の巣の中にぴったり収まったクリーム色の幼虫や、食用の“蜂の子”を思い浮かべます。どちらも体色は一色で地味なイメージです。

ところがある日、一人の男の子が私のハチの幼虫に対するイメージを180度変える大発見をしました。それは男の子の質問から始まります。「これってハチの幼虫なの? チョウチョの幼虫みたいにカラフルだよ?」男の子も地味な色の幼虫を想像していた様で、男の子の顔は疑問でいっぱいといった表情でした。男の子が手にしている図鑑を見てみると、確かに写真の幼虫はかなりカラフル! しかも巣の中ではなく葉っぱの上にいました。私も驚き、図鑑をよく見てみると幼虫はほとんどハバチの仲間でした。

そこで男の子と一緒にハバチについて調べてみると、チョウと同じく巣を作らずに植物の葉や茎の中に卵を産む事や、成虫は幼虫の世話はしない事がわかりました。「なるほど! ハバチは巣を作らないから幼虫には安全な場所も守ってくれる成虫もいないのか。幼虫は自分の力で大きくならなければいけないんだ。だから敵を脅かすためにカラフルなんじゃないかな? すごいね! お姉さんも初めて気づいたよ!」私がそう話すと男の子は恥ずかしそうに笑い、お母さんのもとへ戻っていきました。(松橋)

体色は尖沢のある紺色  
↓ 全体的にしわわ



ハバチ科  
ニホンカブラハバチ

体色は薄い黄緑へ黄緑  
↓ 真ん中に黒い線が入る



コンボウハバチ科  
カラフトモモブトハバチ

体色は薄いオレンジ  
↓ 黒い斑点がある



ハバチ科  
ホプラハバチ

参考図書「札幌の昆虫」(木野田君公著、北海道大学出版会、2006年)

スケッチ: 松橋杏子



北区の福移篠路湿地  
(2005年撮影)



## 札幌が大都市になった背景

十枚の紙片に十区の名を書き、小さくたたんで毎回くじ引きのように取り出しながらどの区を書くか決めてきました。しんがりは「北区」です。

北区は創成川より西のJR札幌駅と北海道大学を含む市街地と石狩市、当別町との境界となる北部一帯を広く占めています。一般に川が運んだ土砂などが積もってきた低地および泥炭地を含む湿地が多くを占めているというイメージがありますが、実際の地盤の地質は、北区の南側には扇状地が地表に出ていて、そこから扇状地が徐々に地下にもぐっていきながら低地、さらに湿地へと連なるという、さまざまな地盤環境がある場所です。ということは、多くの農産物を生産できたということであり、水はけのよい扇状地では桑、扇状地のきわでは水田、低地では畑、湿地では藍や燃料用の泥炭などさまざまな産物を生みだしてきました。とはいえ、北区の多くを占める低湿地帯では栽培できる作物が限られるうえ、豊平川と石狩川の下流部にあたることから、雪解けや秋の長雨時期にはたびたび洪水に見舞われ、大きな被害をだしてきました。その大きな原因は、今からおおよそ6000年前をピークに、年平均気温が現在より1~2℃高くなり、海水面が2~3m高くなっ

たとされる「縄文海進」にあります。海進によって海岸線が内陸まで入り込み、現在の手稲駅から北東方向に細長い砂の堆積物「砂洲(さす)」が形成されました。現在でもこの地形の名残を「紅葉山砂丘」と呼んでいます。

現在「琴似発寒川」とよばれる川は、山の麓で発寒川扇状地を形成した後、日本海に向けて北西に向かって流れていましたが、途中で紅葉山砂丘にぶつかり、流れがほぼ直角に曲がって北東方向に変わり、紅葉山砂丘に沿う形で現在の茨戸川(旧石狩川)に流れ込みました。その結果、北区の広い範囲に川の水が供給され、低湿地帯が拡大しました。これを解消するため、明治19年に「新川」の掘削が始まり、翌年には完成。琴似発寒川をはじめ北区に集中する川の水を直線で日本海まで排水する大規模な治水事業を成功させたのです。これによって北区は良好な耕作地へと姿を変え、後に高度経済成長の折、札幌の人口が急増した際には安全な住宅地を供給するベースとなったのです。そうした意味で、北区は札幌が日本で5番目の大都市になるために重要な役割を果たしたといえるでしょう。(古沢)

## 行事ミニレポート★

### ビーチコーミング～漂着物観察会～

「ムール貝」として食べるムラサキイガイ(外来種)の貝殻も多く打ちあがっていて、参加者からは「石狩湾にいるんだ!」と驚きの声も。

今回は「漂着物ビンゴゲーム」(学芸員作)に出された物を探しながら海岸をあるきました。ゲームとなると例年と違ってみなさんの目に鋭さが!

(2015年7月11日開催)



←参加者の採集物。ただのゴミもよく見たらハンゲル文字が書かれています。



# おしらせ

## 行事

科学絵本読み聞かせ&学芸員の井戸端サイエンス  
テーマ「針葉樹の森と生き物たち」

12/19(土)14:00-14:30 無料、申込不要

会場 札幌市博物館活動センター展示室内

対象 3歳~大人 定員 なし

読み手 朗読ユニット月兎兎(つきとうさぎ)

ハンドベル演奏協力 ふるさとを歌う会 in 札幌 森の時間ミュージックベルサークル

内容 北海道にもある“モミの木”のようなマツの仲間と、その森にくらす生き物についてお話しします。

共催 札幌市博物館活動センター、朗読ユニット月兎兎



## 紹介

NHK「ブラタモリ#22 札幌」にて、札幌の街にひろむ「高低差」と、その「?!」を大紹介!

札幌市博物館活動センターが全面協力しています。ぜひご覧ください。

11月上旬以降(予定)の土曜午後7時30分から放送。※放送日は変更となる場合があります。

## 移転

2016年4月から豊平区平岸に移転します。

移転作業のため、平成27年12月29日~平成28年3月31日は一般のご利用を休みとさせていただきます。平岸でも活動を続けていきます。今後もよろしく願います。

移転先住所 〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条15丁目1-6

## 札幌市博物館活動センターご案内



ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

【開館時間】10時~17時【入館料】無料【休館日】日・月曜日、祝日、年末年始(12/29~1/3)

※移転のため休館:平成27年12月29日~平成28年3月31日

【住所】〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ5階 ※平成28年3月末まで

【電話】011-200-5002 【FAX】011-200-5003 ※平成28年3月末まで

【E-mail】museum@city.sapporo.jp

■札幌駅前地下歩行空間から徒歩約15分。

■公共交通機関をご利用ください。

<地下鉄>東西線西11丁目駅4番出口徒歩5分。

<市電>西8丁目または中央区役所前電停徒歩8分。

<バス>北1条西7丁目バス停徒歩3分。



## 編集後記

つい先日、以前にイチョウウキゴケがあった手稲区西野の水田を通りかかると、家庭菜園になっていました。十数年前の調査時、持ち主の方が「琴似発寒川から水を直接引いている」と教えてくれたのを思い出し、改めて札幌は水にまつわる話題がまだあるなあ、と思いました。(や)

大累計来館者数 **98,985**人  
(2015年9月末現在)



さっぽろ市  
02-J02-15-1031  
27-2-687



ミューズレターは、再生紙および植物油インキを使用しています。